

新興国投資について考える

新

興国と聞くと、多くの方は高い成長性と引き換えに大きな値動きを伴う、ハイリスク・ハイリターン市場を思い浮かべるだろう。実際、これまではインドや中国などの成長期待が高い国や特定の企業に投資資金が集まり、新興国投資は「成長」を追求する投資として語られることが多かった。

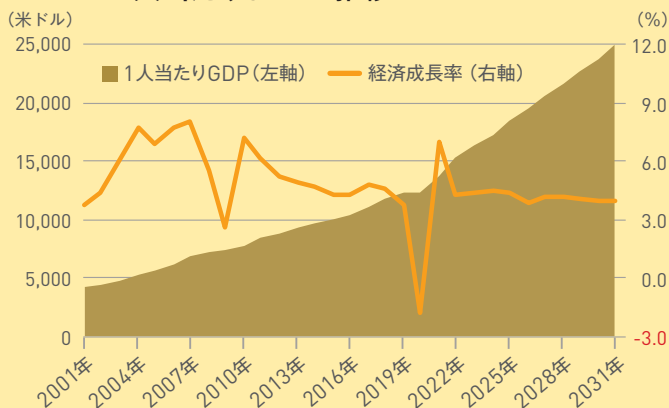
しかし、今日の新興国市場は以前とは姿を変えつつある。例えば、1人当たりGDPで日本を上回る国もあり、経済的な成熟が進んでいる。新興国の株式投資と言えば、中国・インドを思い浮かべる方が多そうだが、近年は台湾、韓国、サウジアラビア、ブラジルなど、多様な国や企業が市場をけん引する構図へと変化している。「新興

国＝高成長」という単純な見方だけでは十分ではない時代になったと言えそうだ。成長性だけでなく、収益力や配当、産業構造、人口動態など、様々な視点から評価することが重要になるだろう。

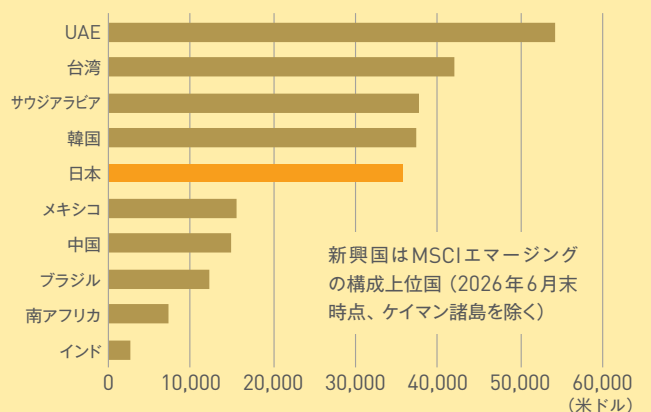
一方で、ビジネス環境の異なる様々な国が存在する新興国市場への投資は、情報開示や企業分析の蓄積という点で先進国市場に比べ難易度が高い。国によっては企業統治や株主還元など、株式投資のベースとなる考え方自体が異なる場合もあるだろう。リサーチレポートや様々な切り口の投資信託商品など、プロの調査力や分析力といった強みを活用することも、併せて考えてみてはどうか。

M

図表1 新興国・発展途上国の経済成長率と1人当たりGDPの推移



図表2 主な新興国と日本の1人当たりGDPの比較 (2026年)



(出所)IMF、World Economic Outlook(2026/4)のデータをもとに当社作成

ティー・ロウ・プライス 新興国ディスカバリー株式ファンド Aコース (米ドル売り円買い) / Bコース (為替ヘッジなし)

追加型投信/海外/株式

新興国をポートフォリオの新たな成長力に

世界の構造変化を追い風に多様な成長ドライバーを有する新興国企業に着目します。
「見過ごされている銘柄」を発掘(再発見)することで、
長期的に魅力的なリターンの獲得をめざします。



商品のお申込みにあたっては目論見書等を必ずご確認ください。目論見書等のご請求はお取引店までどうぞ。